



会派視察・研修報告書

会派名 市井の会

代表者名 加藤元司

1 日にち	令和5年3月1日(水)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	第29回建築・建材展2023
3 参加者	加藤元司、奥村孝宏
4 調査・研修の内容	多治見市美濃焼タイル振興協議会の 建築・建材展出展状況について
5 主な内容	セラミックタイル美濃2023 ～現在・過去・未来、タイル100年の時間に思いを馳せる。 そして未来につなぐ。～ (各出展者の出展ブース) 内外装タイル、床タイル、モザイクタイル等、バリエーション のより広がった美濃焼タイルの展示
6 所感、提言事項、 課題等	【議員氏名】加藤元司 3月1日(水)、東京ビッグサイトで開催中の建築・建材展(モザイクタイル展)の視察に3年振りに出掛けた。 このタイル展は笠原町時代から続く1年に1度の業界のビッグイベントであり、行政も補助金を出している大きな展示会である。コロナの影響で2年中止だったが、今年の展示会はかなり活気が戻っている印象を受けた。 タイル展示については、数年前まで生産の中心であった四五二丁、四五三丁などの量産品が以前のように消費されなくなり、生産の中心が大判のものと、旧来のモザイクタイルの中心であった各種の模様を描き出すタイルに移行している様に感じられた。 また、過去には手間がかかって敬遠されがちであった物が改めて見直され生産される様になってきたと話される会社もあった。 この様な傾向から、各出展者がそれぞれ工夫を凝らした展示

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>も見られた。</p> <p>来店者の話を伺うと、このタイルはどのような現場で使用する事が望ましいのか。とか、どういう風に使うと効果的に雰囲気を出せるのか等、使用例について細かく質問をされていた。</p> <p>全体としては、我々が小さいころから知っているタイルの面白さが再認識されてきているとの印象を受けた。</p> <p>あとは、この傾向が実際の需要に結びつき、業界の活気を取り戻すことにつながるよう期待したいと思う。</p> <p>【議員氏名】 奥村孝宏</p> <p>初めて「建築・建材展」を視察した。想像をはるかに超える大規模なイベントで、全てを見ることは難しかった。</p> <p>そうした中、地元多治見市の企業16社に加え意匠研究所、たじみブースさらには「タイルピアノ」を視察した。</p> <p>特に目を引いたのは、『株式会社丸喜』の大きな床材と釉薬の使用方法で結果を出している『鈴製陶株式会社』の壁材である。</p> <p>今回の出展企業だけでなく、市内の企業が、この建築・建材展を機に、少しでも需要を受けて欲しいと思った。</p> <p>出展企業の株式会社カネキ製陶所で伺った話では、現在、所有する窯の何本かは運転していないとのことであった。</p> <p>こうしたことから、多治見市としては、現在、建替え予定の市役所本庁舎をはじめ、市有施設には、セラミックタイルを積極的に取り入れるべきだと思った。</p> <p>以下余白</p>
<p>7 写真等</p> <p>※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>たじみブース前にて</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>タイルピアノ前にて</p> </div> </div>

※ 視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※ 「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。